

評価施策名	3 南丹ブランドの「ほんまもん」をつくる	施策CD	23	施策主管部	農林商工部	部長名	神田 衛
政策名	第2章 自然・文化・人を活かした郷を創る			施策関係部	日吉支所・美山支所		

### 【施策の概要】

#### 1 南丹市が考える理想(目的)

目標項目(成果)	単位	H20	H21	H22		H23	H24
		実績値	実績値	目標値	実績値	目標値	目標値
ブランド農林産物の販売額	千万円	129	118	134	98	136	138
ブランド農林産物主品目数	品目	35	35	37	35	39	41

- 南丹ブランドの確立と販売を促進する。
- 農林業の振興を図る。

#### 1 南丹市の現状(課題)

- 南丹市は京のブランド産品の産地として高い評価を得ている。
  - ブランドイメージの確立とともに、有利に販売するための販路開拓も課題である。
  - 農業産出額の年次推移ではほぼ横ばいで、平成17年で約51.6億円である。
  - 販売農家数は、近年減少傾向で、農業者も高齢者の比率が高くなっている。
  - 農業生産法人の育成や新規就農者の支援など担い手の確保が課題である。
  - 販売農家数の状況 第2種兼業 第1種兼業 専業 合計  
平成17年 1,845戸 239戸 438戸 2,522戸
  - ほ場整備、農道・水路・ため池など老朽化した施設の整備等が必要である。
  - 広大な森林を有しており、人工林はそのうち約4割の21,604haである。
  - 森林整備が停滞しているとともに、病虫害、野生鳥獣による被害も多発している。
  - 特産の丹波マツタケも松林の害虫被害などにより生産量が激減している。
- (現状)・農業産出額 516千万円(平成17年)

#### 2 対策をしなければどうなるのか

- 地域間競争に勝ち残れなければ、市内産業の衰退を招き、地域経済が低迷する。
- 農林業従事者の高齢化、担い手不足が進行し、農地や森林が荒廃する。
- 病虫害や鳥獣被害により、生産意欲が減退する。
- 生産基盤の整備や作業の機械化によるコスト削減を図らなければ、生産費に見合う収入が得られず、再生産ができなくなる。

#### 3 それは何故おきたのか

- ライフスタイルの多様化、健康意識やグルメ志向の高まりなどが背景にある。
- 食品や地域の物産に対する消費傾向が多様化している。
- 消費者はより安全・安心な食品や嗜好性の高い製品を求めている。
- 地域ブランドの確立を図り、消費者にアピールする地域物産が次々と登場し、全国的に地域間競争が激化している。
- 農業従事者の高齢化、担い手不足が進行している。
- 木材価格の低迷が続いている。
- 林業就業者の減少と高齢化により、森林整備が停滞している。
- 農林業ともに、病虫害、野生鳥獣による被害も多発している。

#### 4 それらを解決するために何をするのか

- ①ブランドイメージを確立する。  
・特産品の生産に対する支援、工芸品や工業製品の振興支援、本市の特産品の育成
- ②特産品の販売を拡大する。  
・市民や全国へのPR活動の実施、販路開拓への支援
- ③立地を活かした農業の振興を図る。  
・集落営農組織の経営強化と法人化に向けた支援、認定農業者、新規就農者への支援  
・先進的な農産物生産の支援、畜産農家の経営安定化のための支援など
- ④森林の公益的機能を回復させる。  
・新たな林業従事者の確保と育成、労働条件の改善に向けた支援  
・林道、作業道などの整備、作業の機械化促進支援  
・地元産材を使った家屋の販路開拓、間伐材の利活用、林産物の振興促進
- ⑤野生鳥獣被害を削減する。  
・捕獲班員の確保と育成、防除施設の設置に対する支援、防除や捕獲に係る相談、指導

#### 【施策コスト】(評価対象事業の合計)

	単位	H20	H21	H22	H23	H24	
決算額(計画額)	千円	286,817	305,988	243,692	218,113	193,601	
財源内訳	使用料・手数料	千円	131	26,606	5,129	18,297	18,300
	国・府支出金	千円	123,282	144,017	99,587	75,868	62,944
	地方債	千円	33,400	38,300	16,800	12,650	5,000
	一般財源	千円	130,004	97,065	122,176	111,298	107,357
職員従事人数	人・年	5.38	9.34	10.22			
人件費	千円	31,474	59,688	63,969			
事業費総額	千円	318,291	365,676	307,661			

#### 【施策目標の達成に貢献度の高い事業】

全 39 事業 単位:千円

事業名(細事業名)	決算額	うち一般財源	
		うち一般財源	うち人件費
農業振興事業(各種団体関係事業)	15,939	15,393	3,083
林業振興事業(林業振興指導事業補助金)	3,376	3,376	376
林道・作業道事業(林道・作業道事業)	10,434	10,434	2,866
共済・担い手育成事業(共済・担い手育成事業)	16,634	7,169	646
野生鳥獣被害総合対策事業(有害鳥獣捕獲対策事業)	46,822	41,008	4,716
野生鳥獣被害総合対策事業(鳥獣害防止総合対策事業)	32,422	10,151	2,350
土づくり事業(土づくり事業)	8,041	1,241	434

#### 【前年度の評価】(要約)

- #### 【総合評価】
- 農産物価格の低迷で産出額は横ばい状態にある。農業者の高齢化や集落の過疎化の傾向は今後も予測される。国・府の緊急的な補助事業も取り入れる中、組織の育成、共同機械導入等に一定取り組むことが出来た。林業についても、長引く木材価格の低迷で林家の育林意欲は減退している。林業労働者の減少の中、森林組合、林業事業者への造林・間伐施業への支援は制度事業を有効活用する中、取り組むことが出来た。また福利厚生の面への支援についても引き続き行った。農産物・林産物被害を引き起こしている、野生鳥獣対策の総合的な見直し、強化が必要である。中長期的視点での駆除・防除対策も重要である。
- #### 【改善の方向性】
- ブランド京野菜をはじめとして、花き、黒大豆、小豆等特色ある地域特産物の生産振興の取り組みを推進する。集落や地域での合意をもとに、集落営農組織も重要な担い手と位置づけ、地域の中核的担い手農家とともに支援、法人化を推進する。野生鳥獣対策について地域ごとの協議会を設置し対策を検討する。
- ブランド野菜を知ってもらうために生産現場見学会を実施していく。集落営農組織の立ち上げ支援また相談活動を実施する。営農基盤整備のための機械及び施設導入を図る。新規就農者に対しても引き続き支援を行う。林業生産基盤の整備を行う。広域連携で有害鳥獣害対策を促進する。南丹市の森林を考える会の活動を展開していく。市内で活躍される工芸家や団体の活動と市民や小中学生などへの工芸の関わりを深め、暮らしに根づく「ものづくり」を発掘していく。

#### 【評価を受けて取り組んだこと】

- #### 【総合評価】
- ①目標の達成状況  
農業においては、長引く米価の低迷により全体的に産出額は横ばいから下降気味にある。農業者の高齢化や集落の過疎化の傾向は今後も予測される。国・府の緊急的な補助事業も取り入れる中、引き続き組織の育成、共同機械導入等に取り組むを進めた。林業についても、長引く木材価格の低迷で林家の育林意欲は減退している。林業労働者の減少の中、森林組合、林業事業者への造林・間伐施業への支援は制度事業を有効活用する中、取り組むことが出来た。また福利厚生面への支援も引き続き行った。
- ②目標値や施策の考え方の見直し  
京都・南丹ならではの質の高い交流商品づくり。都市農村交流環境を整備(農業体験施設、農業加工施設や直売所)を整備する。戦略的な情報発信農産物・林産物被害を引き起こしている、野生鳥獣対策の総合的な見直し、強化が必要である。
- #### 【改善の方向性】
- ①今後の方向性  
南丹市域は京阪神の大都市に近接するとともに、豊かな山林や里山、田園などの豊かな自然に囲まれ、丹波黒大豆やみず菜、春菊など京の食文化を支える高品質な農林水産物が生産されている。このような地域の特性を有効的に活用できるような取り組みを行う。南丹ブランドアクションプランの作成を行う。農産加工づくりについて、特徴を活かした品物をつくり、販売できるよう、一連の生産から流通までのアドバイザー、コーディネートの派遣を行う支援も必要。
- ②各事業の対応  
ブランド野菜を知ってもらうために生産現場見学会を実施していく。集落営農組織の立ち上げ支援のため農業会議等と連携しながら相談活動を実施する。営農基盤整備のための機械導入及び施設改善を図る。新規就農者に対しての引き続き支援を行う。

#### 【今年度の評価】

- #### 【総合評価】
- ①目標の達成状況  
農業においては、長引く米価の低迷により全体的に産出額は横ばいから下降気味にある。農業者の高齢化や集落の過疎化の傾向は今後も予測される。国・府の緊急的な補助事業も取り入れる中、引き続き組織の育成、共同機械導入等に取り組むを進めた。林業についても、長引く木材価格の低迷で林家の育林意欲は減退している。林業労働者の減少の中、森林組合、林業事業者への造林・間伐施業への支援は制度事業を有効活用する中、取り組むことが出来た。また福利厚生面への支援も引き続き行った。
- ②目標値や施策の考え方の見直し  
京都・南丹ならではの質の高い交流商品づくり。都市農村交流環境を整備(農業体験施設、農業加工施設や直売所)を整備する。戦略的な情報発信農産物・林産物被害を引き起こしている、野生鳥獣対策の総合的な見直し、強化が必要である。
- #### 【改善の方向性】
- ①今後の方向性  
南丹市域は京阪神の大都市に近接するとともに、豊かな山林や里山、田園などの豊かな自然に囲まれ、丹波黒大豆やみず菜、春菊など京の食文化を支える高品質な農林水産物が生産されている。このような地域の特性を有効的に活用できるような取り組みを行う。南丹ブランドアクションプランの作成を行う。農産加工づくりについて、特徴を活かした品物をつくり、販売できるよう、一連の生産から流通までのアドバイザー、コーディネートの派遣を行う支援も必要。
- ②各事業の対応  
ブランド野菜を知ってもらうために生産現場見学会を実施していく。集落営農組織の立ち上げ支援のため農業会議等と連携しながら相談活動を実施する。営農基盤整備のための機械導入及び施設改善を図る。新規就農者に対しての引き続き支援を行う。